

Eco Premium Club
第15回エコプレミアムクラブ シンポジウム

イノベーション・ Innovation

2018年8月9日

慶應義塾大学経済学部

細田 衛士

プロローグ

しばし美の世界へ…

- 美に接すると人の心が和み、癒される
- そして創造的になれる
- しばし美の世界へ…

弥勒菩薩



ミロのビーナス



モナリザ

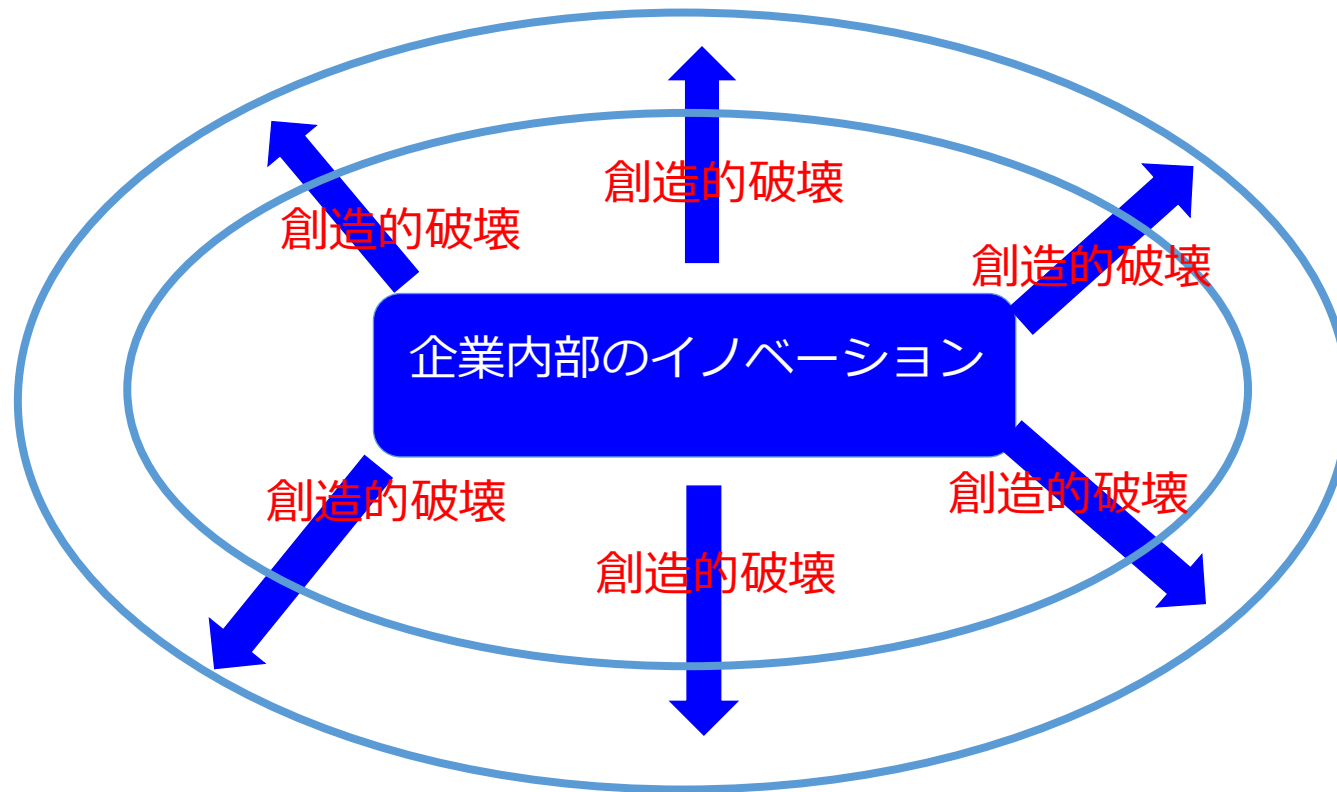


イノベーションと創造的破壊

- 「イノベーション」という言葉が出たら、経済学者はヨーゼフ・シュンペーターに触れざるを得ない。
- シュンペーターは、「創造的破壊」によって経済は革新され、発展成長が進むとした。
- シュンペーターによれば、資本主義の発展の原理は創造的破壊であり、それは企業のイノベーションによって可能になるとした。

ポンチ絵で示すと…

資本主義経済



創造的破壊は武道の精神に通じる

- 武道の基本概念に「守破離」がある。
- 基本を守ることから始まり、いつかそれを離れ、そして離脱して次なる次元に飛躍すること。
- 無から有は生じない。
- つまり基本を忠実に守るフェーズが必ずあるということ。
- しかしいつかは飛躍する。

しかしいつか飛躍が起きる

- しかし、基本から離れて飛躍することなくして新しいフェーズには到れない。
- すなわち「非連続的動き」が必要ということ。
- 過去の成功体験に寄りかかっているだけでは飛躍は望めない。
- しかし同時に過去の成功体験・失敗体験を無視して飛躍することもできない。

飛躍を起こす想像力・創造性は どこから来るか？

- まず今世界のビジネスエリートたちは何を優先的に学んでいるか？
- もはや従来型のビジネススクールは時代遅れの感有り。
- トップエリートはなんとアートに優先順位を置いて学んでいると言う。
- なぜか？
- アートに触れることによって直感力が養われ、より創造的になれると言う。

感性を磨け、直観力を育てよ

- 分析力（理性）も大切だが、それと同様或はそれ以上に感性を磨くことが重要
- そして直感的な把握ができること⇒全体像の把握、大局観を持つこと
- 感性と直観力を持ってクリエイティブに仕事をする

感性と理性

現在はこれらの領域の力を付けることがより創造力の向上に資する

想像力・創造性

感性

総合力・俯瞰力

直感的把握

理性

分析力

概念的把握

イメージ的に示すと…

働く人々がクリエイティブになれる！



健全な判断、発展・展開する戦略の策定

分析力
理性

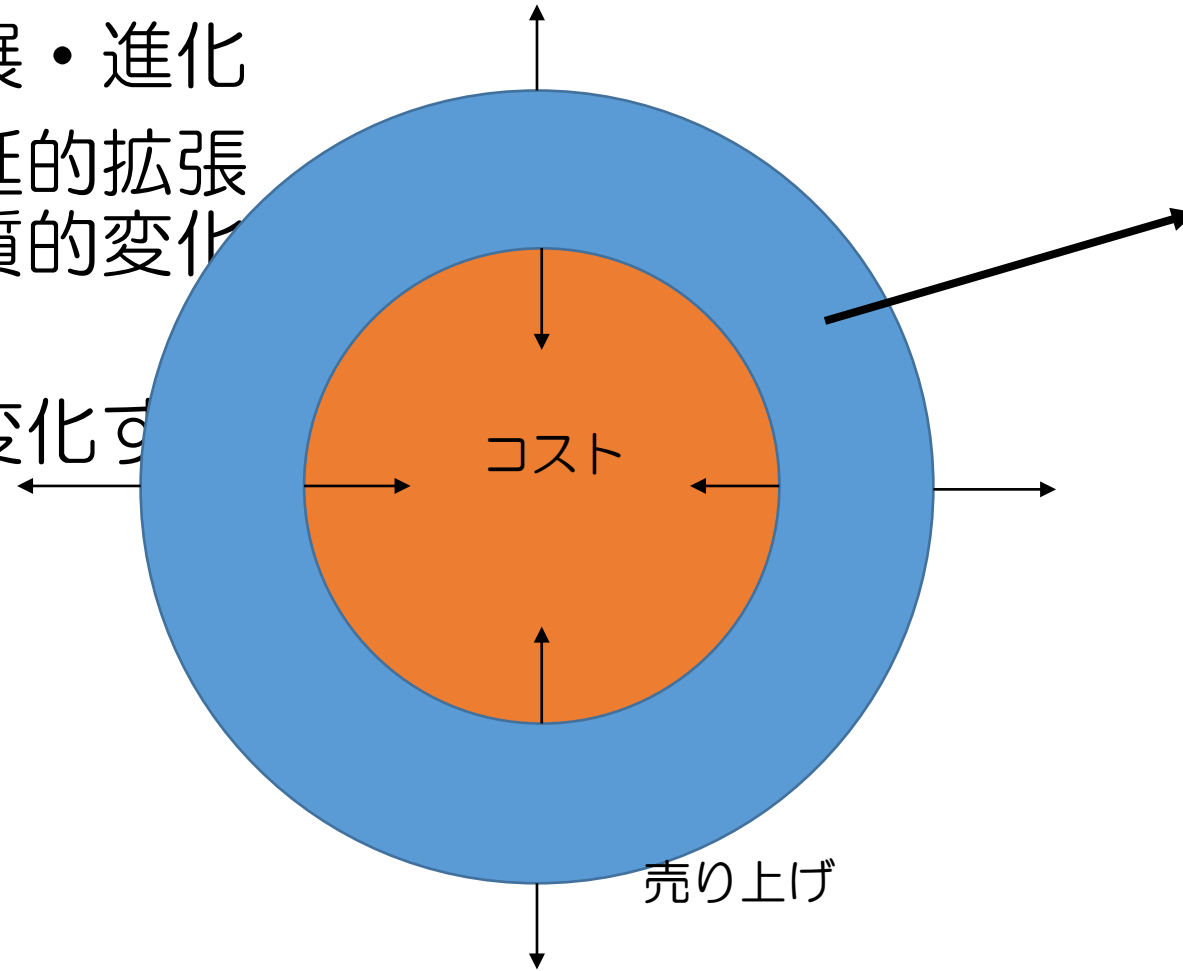
- 冷静な現状分析、将来予想
- 収益性や方向性の確認

直感力
感性

- 全体の把握、俯瞰力
- 創造的に仕事をする力

高付加価値化の本質

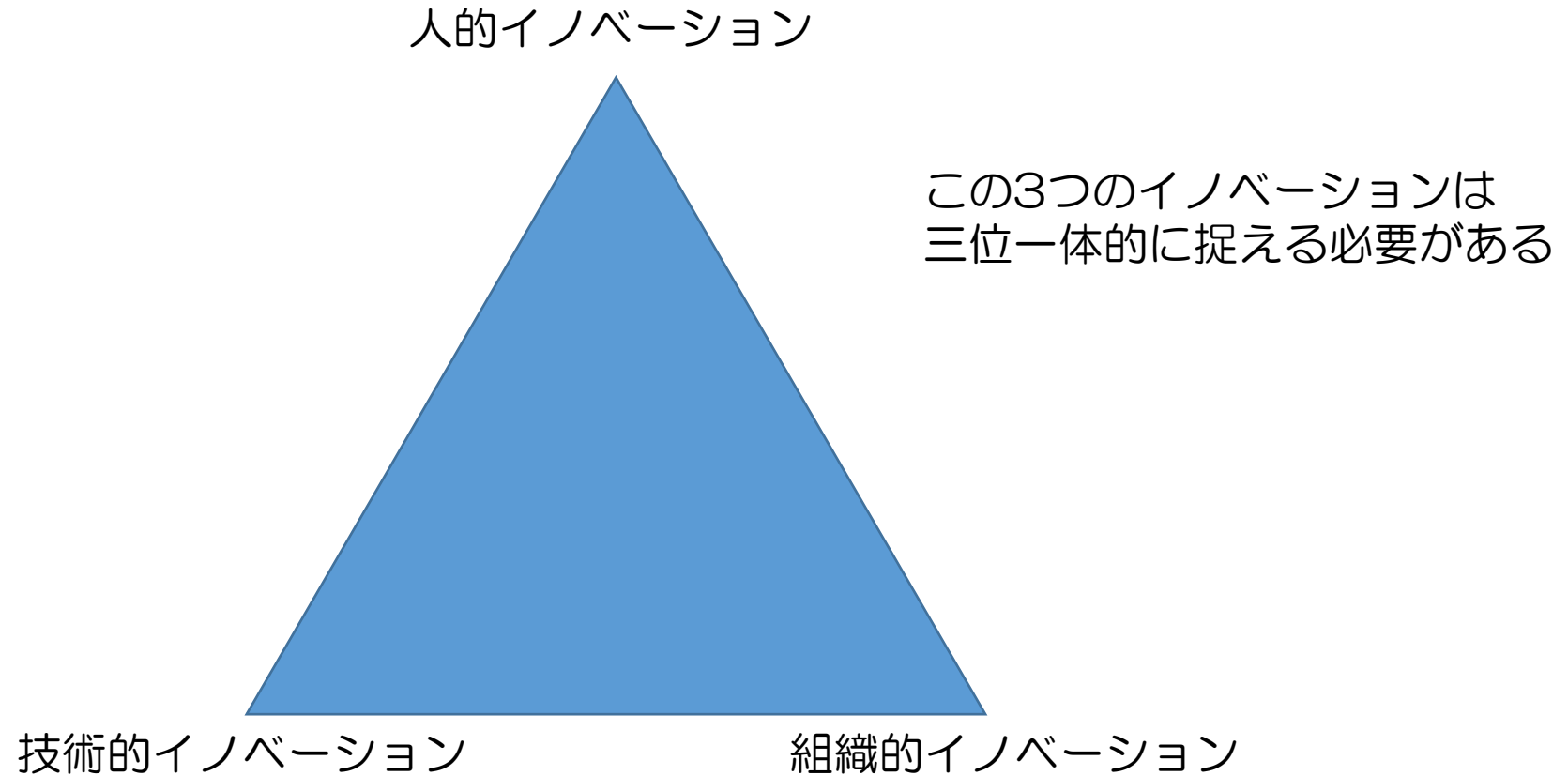
- 外延的拡張と内包的進展・進化
- 創造的破壊による、外延的拡張と内包的進展・進化の質的変化が求められている
- 右の図の円の枠自体が変化することが重要。



3つのイノベーション

- 技術的イノベーション (technical innovation)
- 組織的イノベーション (system innovation)
- 人的イノベーション (human innovation)
- この3つを同時に行うことによって生産性を高める

3つのイノベーションの関係



技術的イノベーション

- 先端的技術の投入
- オートメーション化
- ICTの十分な活用
- AIの活用
- ビッグデータの利用
- しかしこれらが有効に活用されなければ高付加価値化にはつながらない
- 設備投資幻想に陥ることなかれ！どう使うかが問題！

組織的イノベーション

- 組織（システム）が柔軟性を持ち、効率的にヒト・モノ・情報を有効利用すること
- システム改革、たとえば組織の統廃合、M&A、コンソーシアム化が進展すること
- 権限移譲が適度に機能し、かつガバナンスが機能していること
- 従来よりも自由な発想でファイナンスを考えること
- （例）静脈物流の一元管理による効率化、低炭素化
- （例）水平連携・垂直連携によるシナジー効果の発揮

人的イノベーション

- 人材スキルの向上
- 組織内教育（昔でいう能力開発）
- 学習効果（learning by doing）
- モチベーションの向上→組織内で各主体が展望を持てるようにすること→モチベーションがなければ学習効果も薄れてしまう

バージニア・ロメッティの言葉

(IBMで女性初のCEO)

- 「生産性の決め手は自分にしかできない仕事だけをやり、他人にできることはすべて誰かに任せること」
- しかしこれが機能するためには、然るべき能力を持った人材が周囲にいなけねばならず（人的イノベーション）、権限移譲が機能していなければならぬ（組織的イノベーション）
- 加えて技術的インフラが備わってなければならぬ（技術的イノベーション）

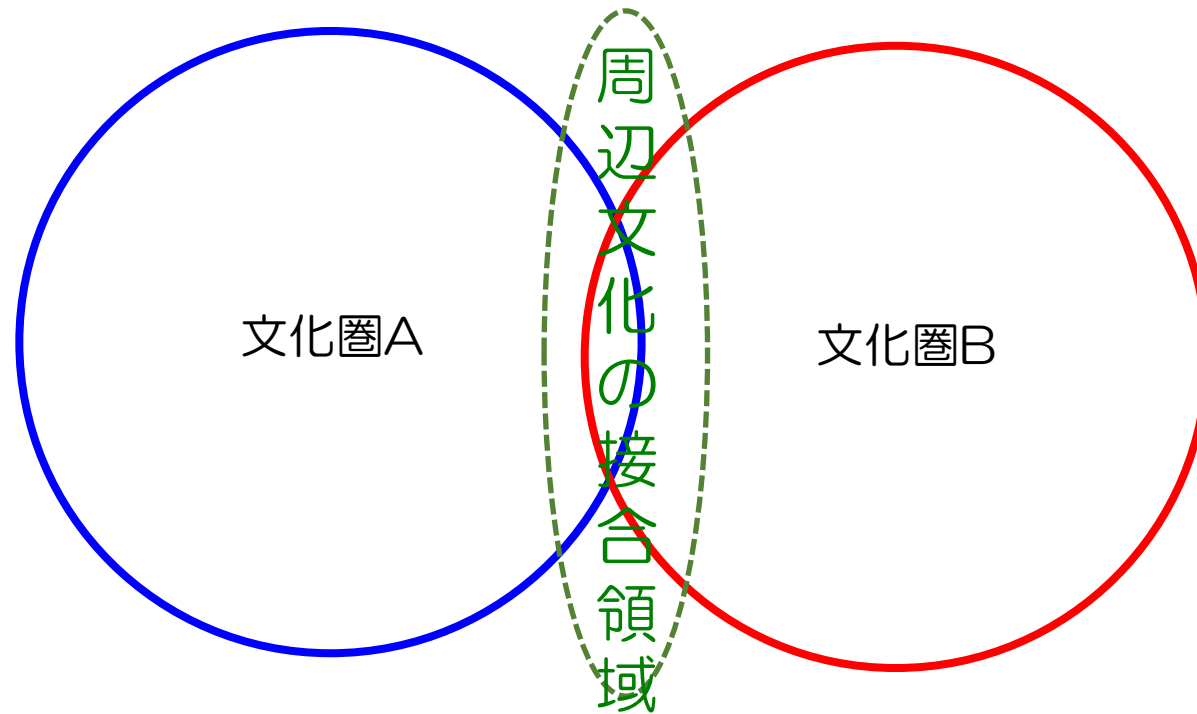
とどのつまり…

- 技術的イノベーションが進んだだけではダメで、同時に人的イノベーション、組織的（システム）イノベーションが進まなければ付加価値生産力は上がらず、生産性は向上しない

分断からフュージョンへ

- フュージョン、すなわち融合させることによって起きる創造的破壊がある。
- 異なった要素のものをつなぎ合わせると全く異なったものが生み出される。
- 文化も異なった文化が接することによって発展する。
- かつての周辺革命論を思い出させる。

周辺革命論



文化圏の中心ではなく異文化圏の周辺領域で新たな文化が展開する

スティーブ・ジョブズのやったこと

- 機械的なマシンはあった。
- デスクトップと言う概念もあった。
- プルダウンメニューという概念もあった。
- マウスもあった。
- 美しいフォントもあった（ジョブズがコミュニティ・カレッジに通っていたとき知った）
- 全部合わせるとどうなるのか。
- それをジョブズはやった。

このことは何を教えているのか

- 全体を見ることの重要性。
- つまり俯瞰する力。
- 個々の要素にこだわることも重要だが、それを融合させて新しいものを作る出すこと。
- つまりシステムの発想がないと個別技術は活かせない。
- そして完成されたシステムは美しいのだ！！！！

おわりに

- 資本主義の発展原理はイノベーション。
- 守破離、武道の精神と基本は同じ。
- 分析的な力だけではイノベーターにはなれない。
- 総合力、俯瞰力が必要。
- そしてシステムの発想。
- そのためには、美的センスを磨くこと。
- 今ビジネスエリートたちは美のセンスを鍛えている。